

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第63号

発行:2018年9月6日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
副住職 天野英昭
〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
TEL・fax(082)428-1360

秋彼岸法座

日 時 9月26日(火) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~11:30 暮席 13:00~15:00

ご講師 長岡 正信 師(呉市 西岸寺ご住職)

第83回歎異抄輪読会

日 時 9月20日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

仏壮大からのお知らせ

★天龍寺佛教壯年会 月例会 9月30日(日) 19:00~20:30

磯松天龍寺墓苑並びに磯松天龍寺墓苑合同墓合同参拝のお礼

今年も8月12日(日)の18:00から磯松天龍寺墓苑にて合同参拝をさせていただきました。また、大変暑い中、お忙しい中、今年も昨年同様、多くの方のご参拝をいただきましたこと感謝申し上げます。さらに過分なるお供えも頂戴しました事、重ねて感謝申し上げます。

今年も家内の兄(島根県高林坊住職)・息子と私で法要を務めさせていただきました。祖父・父から私、そして息子・孫の代へと変わっていくと思いますが、これまで同様に、磯松天龍寺墓苑・磯松天龍寺墓苑合同墓参拝を継承させていただければありがたいと思う事もあります。

遠くは東京・千葉・鹿児島県等、なかなかご縁をいただく事が難しい方々ともこの様な法要を通してご縁をいただきます事は、この点もありますとしみじみ感じる事あります。

天龍寺佛教壯年会の方々へ感謝申し上げます。

8月1日(水)の盆法座の前の7月下旬には、本当に暑い中、当山の裏山をはじめ境内地の草刈りをしていただきました事、書面をお借りしまして感謝申し上げます。

私という存在 V

しかし、仮に「主体の確立」が出来たならば、本当に広々とした世界に出て生きて行くことが出来ると思う事です。日々の心配・不安・恐怖等は言うに及ばず、さらには「死」というこの世に生を受けたものは避けて通れない底知れない不安・恐怖さえも超えていく人生を歩むことが出来ることだと思います。

この点も以前ご教示頂いたことですが、キリスト教の教えに「はじめにことばがあった。」という言葉があると言われました。私と言う存在、否、人間と言う存在がいようが、いまいか、絶対的な存在があるのだとその時に受け取らせていただいた事です。私が気づこうが、背中を向けようが、無視しようが、絶対の世界からの『われと共にあれ。』『われに帰せ。』のお呼び声が、頭ではなく、心の底から、身体全体に届いて下さるのかと思いますが、まだまだ私には遠い世界の事だと認識してやみません。

しかし、一方で時機 純 熟 の言葉に支えられながら、少しでも前に進めればとも思う事です。

最後に、これまでの自分の人生を振り返り、母の死・教え子の死等、私は私なりに目をそむけることが出来ない現実に遇いながら、さらにお寺に帰らせていただいて9年になりますが、その間、逆縁の死、さらに毎年十代・二十代の方のお葬儀などのご縁をいただきました。この様なご縁に遇いますと私なりに色々と考えさせられる事があります。

一口では言えない、いくら時間が経っても癒えない悲しみ・苦しみ・辛さ等を悲しみ・苦しみ等に終わらせるのではなく、ただ癒えない悲しみ・苦しみ等をご縁を仏法の糧として、広い世界に出来させていただくための糧として生きて行くことが、大変難しい事ですが、ご教示の如く私なりに出来ればと思うこのごろです。

（長きに渡り、失礼をしました。）

お知らせ

この度の寺報が白黒で印刷してあり、また封筒が従来のものとは違っております。理由はある印刷会社にお願をいたしたためです。これまでには、当山で封筒を購入し、当山の住所を印刷し、さらに寺報も当山で印刷し、みなさまに送付・配布させていただいておりました。

しかし、平成22年度から印刷・送付等をさせていただきましたが、印刷部数が始めた頃よりも増え、当山の労力等などでは難しくなってきたために、この度の様な形を取らせていただきました。以後は、この様な形で進めていきますことご理解をいただければ幸いでございます。

この度の印刷にあたり、その会社の社長様が私の親友の弟様ということも何かのご縁であったかもしれません。印刷をお願いし当山に帰っておりました時、車の中で幼少の折、親友と弟様等と一緒に八本松北の神社の境内で一緒に遊んだことを思い出しておりました。

以前、「池の中に石を投げ入れると輪が広がっていくが、君の人生もご縁の輪が広がっていくような人生をおくりなさい。」とご教示をいただいたことがあります。

幼少の際に、一緒に遊んだご縁が、この度のご縁に繋がっているのかもしれません。日々のご縁は、目に見えない糸に紡がれる中でのご縁とも考える事があります。

自分にとりよいご縁も。悪いご縁も、自分なりに大切にさせていただきながら、自分なりの歩みができればと思っております。

最後にこれからのご協力も含めK社長様には、書面をお借りし厚く感謝申し上げるしだいです。